

科目名 (英)	自然科学 (Natural Science)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	川上 智史 高橋 未倫
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	前期 木曜2限 土曜3,4限
教員の略歴	川上: 博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事 高橋: 理学療法士として8年間の実務経験、修士(理学)、Golf physio trainer(2017取得)						
授業の学習内容	(物理分野) 物理学的基礎事項、力と運動の関係(力学)、それに伴う数学的知識を学び、物体や人体の運動について物理学的視点で考える力を養い、以降に学ぶ運動学へと繋げる。 (生物分野) 生命の基本的知識を習得し、併せて、解剖学・生理学・運動学学習の基本的知識を理解する						
到達目標	(物理) 物体や人体の運動について物理学的視点から考えることができるよう、力学を中心に物理基礎を習得する。 (生物) 生命の基本的知識を習得し、併せて、解剖学・生理学・運動学学習の基本的知識とする						
評価方法と基準	(物理分野) 筆記試験(70%)、出席(30%) (生物分野) 筆記試験80%、授業態度10%、課題レポート10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月6日	講義	人体とは何かを理解できる	授業内容の復習
2	4月15日	講義	人体を構成する細胞を理解できる	授業内容の復習
3	4月22日	講義	細胞の働きを理解できる	授業内容の復習
4	4月28日	講義	細胞のタンパク質合成を理解できる	授業内容の復習
5	5月1日	講義	DNAと遺伝子、遺伝子発現について理解できる	授業内容の復習
6	5月8日	講義	ミトコンドリアによるエネルギー産生について理解できる	授業内容の復習
7	5月15日	講義	血液について理解できる	授業内容の復習
8	6月8日	講義	物理量とその表し方について説明できる。	授業内容の復習
9	6月15日	講義	物理学で使うグラフと関数について説明できる。	授業内容の復習
10	6月22日	講義	いろいろな運動について説明できる。	授業内容の復習
11	6月29日	講義	さまざまな力について説明できる。	授業内容の復習
12	7月6日	講義	力のつり合いと運動法則について説明できる。	授業内容の復習
13	7月13日	講義	物体の重鎮と回転運動について説明できる。	授業内容の復習
14	7月20日	講義	運動量、仕事とエネルギーについて説明できる。	授業内容の復習
15	7月27日	講義	これまでの講義の復習を行い理解を深めることができる。	授業内容の復習
	7月27日	試験	筆記試験	
準備学習 時間外学習			授業終了後の復習をしっかりと実施すること	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
(物理分野) 講義内で適宜配布				

科目名 (英)	保健科学 (Health Science)		必修 選択	必修	年次	1	担当教員	吉田晴彦
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・実 習	総時間 (単位)	60 2	開講区分 曜日・時限	前期 金曜日 3・4限
教員の略歴	平成15年3月 中学・高等学校教諭一種免許(保健体育)取得 平成26年4月 スポーツ&コンディショニング「SteadyFive」みやぎのほら接骨院開業							
授業の学習内容	体力向上のための実技として球技などを通して身体機能・構造を習得する。 また、健康な体づくりのための授業として栄養などをテーマとし保健分野の知識を習得する。 人間の運動にかかわる身体の機能と構造についてを知る							
到達目標	健康な体づくり、体力向上のための体育分野と保健分野の専門知識と技術を身につける。							
評価方法及び基準	1) 定期テスト(筆記50% 実技参加態度意欲50%)							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義	機能解剖(上肢の骨・筋)を理解する	プリントの復習
2	4月16日	講義	機能解剖(下肢の骨・筋)を理解する	プリントの復習
3	4月23日	講義	機能解剖(体幹部の骨・筋)を理解する	プリントの復習
4	4月23日	講義	トレーニング理論(プログラム変数)を理解する	プリントの復習
5	5月7日	講義	トレーニング理論(筋力向上)を理解する	プリントの復習
6	5月7日	講義	トレーニング理論(栄養及び減量)を理解する	プリントの復習
7	5月14日	講義	血圧・血糖・コレステロールを把握する	プリントの復習
8	5月14日	講義	血圧・血糖・コレステロールを把握する	プリントの復習
9	5月21日	実技	ハレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
10	5月21日	実技	ハレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
11	5月28日	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
12	5月28日	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
13	6月4日	実技	ハレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
14	6月4日	実技	ハレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
15	6月11日	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
16	6月11日	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
17	6月18日	実技	ハレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
18	6月18日	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
19	6月25日	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
20	6月25日	実技	ハレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
21	7月2日	実技	ハレーボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
22	7月2日	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
23	7月9日	実技	バスケットボールを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
24	7月9日	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
25	7月16日	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
26	7月16日	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
27	9月3日	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
28	9月3日	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
29	9月10日	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
30	9月10日	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
31	9月17日	実技	フライングディスクを通じ、人間の身体機能と構造について習得するとともに体力維持・向上を図る	身体機能と構造の予習復習
準備学習 時間外学習			身体機能と構造の予習復習	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
トレーニング指導者テキスト実践編・理論編(大修館書店)				

科目名 (英)	教育学 (Education)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋未倫
学科・コース	理学療法科 I部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分 曜日・時限	後期 金曜3・4 限
教員の略歴	理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得)						
授業の学習内容	「教育」「理学療法」「コミュニケーション」の3つを軸にグループワークなどを通じて協調性を図り、自身の意思(考え)を言葉や文章でしっかりと伝えることができるように参加型の授業となります。						
到達目標	教育学の基本的な考え方を学び、「学ぶ」「教える」といった情緒領域に必要な知識について学習する。 本教科は一般教養となります。「教育学」のテーマに沿った形で教育とは何か、なぜ教育が必要なのかを理解し、さらには社会的な側面や理学療法士となっていく過程の中で人間形成へと話を発展させ、学生の皆様がこれから過ごす4年間の重要性について理解を深めることを目標としていきます。						
評価方法と基準	出席 30% レポート 70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	11月26日	講義	オリエンテーション/リハビリテーション概要	講義内容の復習
2	12月3日	講義	リハ概論: 戦略的思考~理学療法士として考えるべきこと~	講義内容の復習
3	12月10日	講義	リハ概論: 理学療法と社会情勢~皆が歩む社会人45年間の変化を見据えて~	講義内容の復習
4	12月17日	講義	教育: 概論①	講義内容の復習
5	1月7日	講義	教育: 概論②	講義内容の復習
6	1月14日	講義	教育: 発達を学ぶ~感情の獲得プロセスから観察する社会性の発達	講義内容の復習
7	1月21日	講義	教育: 発達を学ぶ~道徳理論的行動の発達から観察する社会性の発達	講義内容の復習
8	1月28日	講義	臨床概論~臨床実習と現在の学生の傾向(CCSへの取り組み)	講義内容の復習
9	2月4日	グループワーク	各班発表	前週にグループを分け、各班の課題を提示します。当日までに分担しパワーポイントでの発表資料を作成してください。
10	2月18日	グループワーク	各班発表	
11	2月18日	講義	教育: 社会人類学的視点からみた人間のコミュニケーション	講義内容の復習
12	2月25日	講義	教育: 人間のコミュニケーション行動	講義内容の復習
13	2月25日	講義	コーチングスキル	講義内容の復習
14	3月4日	講義	ティーチングスキル	講義内容の復習
	12月17日	講義	まとめ	講義内容の復習
15	3月4日	試験	レポート試験90分	
準備学習 時間外学習			理学療法士としてだけでなく社会人としての教養という意味でも重要な科目になります。そのため、知識を一方的に伝えるのではなく、節度ある態度で受けることや社会的なモラル、学習態度なども求めていると思います。本科目は、理学療法士として専門性を身に付ける科目とは異なり、どちらかというと社会性を学ぶための一般教養に位置付けられます。国家試験にも含まれません。それでもなぜカリキュラムに含まれるのか。その点をしっかりと理解した上で授業に臨みましょう。	
【使用教科書・教材・参考書】 □ 当日資料を配布します。				

科目名 (英)	心理学 (Psychology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	江崎浩明
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 木曜日 3時限
教員の略歴	大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。						
授業の学習内容	心理学の成り立ちや基礎的な心理学用語・概念を学ぶことで、多くの人々が持つ誤解や偏見から脱し、人が持つ考え方や捉え方の特徴について学びます。身体にダメージを受ければ必ず心にも何らかの不調を来します。理学療法士は身体の専門家ですが、心身不可分(心と体は密接に関係しているので、分けて考える事はできない)の為、心についても理解を深め、心身両面をサポートできる人材になることが求められます。また、自分自身を支える一つの柱として心理学的な視点を養います。						
到達目標	心理学の歴史や他の周辺領域との関連性、用語や概念を学術的基盤に則って学ぶことにより、雑学的な知識ではなく人間を理解する一助としての基礎心理学について理解する。これらの学びを、客観的な自己把握・自己理解のために用いることができるようになる。他者を主観的又は好き嫌いの感情的な枠組のみで捉えるのではなく、特に自分と考えや行動が異なる場合、知的好奇心や興味関心を持ち、客観的な枠組みで捉えることができるようになる。						
評価方法と基準	定期試験100%(選択式と記述式)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/8	講義	講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。心理学を学ぶ目的を理解する。	心理学に対するイメージを考えておく
2	4/15	講義	基礎心理学と応用心理学の違い、心理学的知識の活用に対する功罪について説明できる。	心理学が誤用・悪用されている例を考えておく 〇〇心理学の〇〇に入りそうな言葉を考えておく
3	4/22	講義	心理学史 哲学からの独立、その後の自然科学からの影響を説明できる。	哲学から独立した流れを説明できるようにしておく 心理学が拡大した経緯を説明できるようにする
4	5/6	講義	感覚・知覚・認知 五感の働き、センサーの特徴、知覚的体制化、運動知覚について説明できる。	通学中に五感をフル活用して何を感じたかを考えておく。人生で最も痛かった瞬間を思い出しておく
5	5/13	講義	記憶 I 記憶の過程、時間的変遷、種類と分類について説明できる。	自分の得意な記憶と苦手な記憶、考えなくても半自動的に動ける体の記憶について考えておく
6	5/20	講義	記憶 II 記憶の定着と忘却(エビングハウスの忘却曲線、逆行抑制、記憶術)について説明できる。	これまでの勉強や学習の方法について考えておく
7	5/27	講義	学習 経験による思考や行動の変化、古典的条件づけ、オペラント条件づけについて説明できる。	幼少期からの他者とは異なる習慣、どうせやっても自分には無理と思っていることについて考えておく
8	6/3	講義	動機づけ やる気を持続、自己効力感・学習性無力感、内発的・外発的動機づけについて説明できる。	これまでに挫折したことや、「自分にはどうせ〇〇はできない」と思っている事を考えておく。
9	6/10	講義	感情 喜怒哀楽や不安の種類や特徴、アンガーマネジメントについて説明できる。	最近嬉しかった・怒った・不安に思ったこと・仲間はずれにされるのでは、と思ったことについて考えておく
10	6/17	講義	社会と人間 自己と自我、自己呈示や自己開示、パーソナルスペースについて説明できる。	友人にどんな人と思われたか考えておく 人に流された経験について思い出しておく
11	6/24	講義	知能 知能の定義と構成要素、知能指数の測定、創造性や順応力について説明できる。	頭がよいとはどういうことか、学歴や偏差値でわかること・わからないことについて考えておく
12	7/1	講義	性格 性格の構成要素、歴史的分類、変容に必要な要件について説明できる。	性格は変わるのか、変わるなら変えるために必要なものは何かについて考えておく
13	7/8	講義	心理検査 種類と分類、誤用と悪用、測定可能範囲について説明できる。	心理テストと心理ゲームの違いや何が測れて何が測れないのかについて予想しておく
14	7/15	講義	これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
	7/28	筆記試験	試験	
15	7/29	講義	解説	
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
医療の行動科学 I 医療行動科学のためのミニマム・サイコロジー(北大路書房)				

科目名 (英)	英語 (English Conversation I)	必修 選択	必修・選択必修・選択等	年次	1	担当教員	小椋佳久
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2単位	開講区分	後期 木曜日 1限
教員の略歴	平成26年3月 中学校教諭一種免許状免許(英語)取得						
授業の学習内容	グローバルな感性を養うためのコミュニケーションに必要な英会話を身につける。						
到達目標	医療英語テキストに基づき、医療の現場における様々なシチュエーションでの基本的な文法や語彙を習得する。 医療の場で簡単な英語コミュニケーションが出来るようになる。						
評価方法と基準	評価は、100点満点の筆記試験で行う。授業で学習した内容の定着度を確認する。 評価は学則規定に準ずる。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	7/29	講義	Chapter 1 患者の個人情報聞き出すことが出来る 受付用語が使える	教科書の復習
2	9/2	講義	Chapter 2 病院案内が出来る	教科書の復習
3	9/9	講義	Chapter 3 身体の部位や痛みの程度(強弱)を説明出来る	教科書の復習
4	9/16	講義	Chapter 4 様々な病症を説明出来る 「I feel/I have a/I have」の使い方が分かる	教科書の復習
5	9/30	講義	Chapter 5 患者の過去の病歴や家族の病歴について話すことが出来る	教科書の復習
6	10/7	講義	Chapter 6 アレルギーやライフスタイルについて質問出来る 内臓の名称が分かる	教科書の復習
7	10/14	講義	Chapter 7 患者に基本的な指示を出すことが出来る 身長と体重を測定する表現が分かる	教科書の復習
8	10/21	講義	Chapter 8 バイタルサインを説明することが出来る	教科書の復習
9	10/28	講義	Chapter 10 手術や治療について説明することが出来る 注射について説明出来る	教科書の復習
10	11/4	講義	Chapter 12 整形外科に関連した語彙を覚える	教科書の復習
11	11/11	講義	Chapter 13 リハビリについて説明出来る	教科書の復習
12	11/18	講義	Chapter 14 リハビリや人工器具について説明出来る	教科書の復習
13	11/25	講義	Chapter 16 処方箋の支払いについて説明出来る	教科書の復習
14	12/2	講義	Chapter 17 処方箋とくすりについて説明出来る	教科書の復習
15	12/9	講義	定期試験	
16	12/16	講義	試験の解説、これまでに学習した内容の復習	
準備学習 時間外学習				
【使用教科書・教材・参考書】 □				
医療英語コミュニケーション				

科目名 (英)	コミュニケーション論 (Communication)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	片岡洋樹
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜 2時限
教員の略歴	リハビリテーション病院勤務を経て、教員歴5年、300人以上の学生のコミュニケーションを指導した経験を有する						
授業の学習内容	事前学習を行い、当日授業は、「導入」、「事前学習の発表会」、「解説」、「演習(ワーク)」、「グループ学習」、個人の「振り返り」で構成される。 これらの内容を通して、自分の意見を持ち、人の考えを正しく汲み取ることの難しさを知る。 そして、自分の考えを大切にすること、皆で決めたことを守ることを両立する態度を身につけ、自己信頼を育むことが出来るようになる。						
到達目標	受講者(学生)が「聞く、話す、読む、書く」ということばを使ったコミュニケーションを上手に行うための基本的な技法(目の付け所と、方法)を知り、それを(何度も使うことにより)使う「習慣」を身につけることを目指す。						
評価方法と基準	レポート(指定のワークブック) 70%・ 出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/6	講義・演習	理学療法士に必要なコミュニケーションを説明できる	資料配布
2	4/13	講義・演習	コミュニケーション技法について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
3	4/20	講義・演習	ブレインストーミング法、KJ法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
4	4/27	講義・演習	聞き上手の技法を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
5	4/27	講義・演習	話し上手の技法を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
6	5/11	講義・演習	読み上手の技法①を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
7	5/11	講義・演習	読み上手の技法②を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
8	5/25	講義・演習	書き上手の技法を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
9	6/1	講義・演習	テーマ探しの技法を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
10	6/8	講義・演習	自分探しの技法①を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
11	6/15	講義・演習	自分探しの技法②を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
12	6/22	講義・演習	インタビュー仕事の基本的技術を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
13	6/29	講義・演習	コミュニケーション技法における要点の整理①を説明できる	指定教科書該当ページの予読
14	7/6	講義・演習	コミュニケーション技法における要点の整理②を説明できる	指定教科書該当ページの予読
15	7/13	講義・演習	コミュニケーション技法の活用方法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
準備学習 時間外学習			グループ学習を毎回実施するにあたり課題を出す	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
コミュニケーション技法(キャリア教育総合研究所)、コミュニケーション技法ワークブック(キャリア教育総合研究所)				

科目名 (英)	解剖学 I (Anatomy I)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	溝口二郎
学科・コース	理学療法科 I部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期 水曜日2・3 限、木曜日2 限
教員の略歴	山形大学医学部解剖学教室を経て東北大学大学院医学系研究科准教授を歴任 医学博士						
授業の学習内容	解剖学は理解する学問であることを念頭に置き、解剖組織図で理解を深め、標本や生体に触れて、具体的な人体構造と機能を学習させる。						
到達目標	細胞学、組織学、発生学を基礎として、その上に人体の構造・機能を、系統的に理解できるようにする。						
評価方法と基準	確認試験50%、定期試験50%。2つの試験問題の6割以上を正しく解答できること。						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/15	講義	解剖学の歴史、人体の構成、細胞の理解	プリントとノートによる予習と復習
2	5/6	講義	骨組織、血液とリンパの理解	同上
3	5/12	講義	皮膚の機能・構造、皮膚の付属器の理解	同上
4	5/12	講義	骨組織、全身の骨格の理解	同上
5	5/13	講義	人体各部位の詳細な解剖学名に慣れること	同上
6	5/19	講義	会陰・上肢・下肢の部位、骨形状分類の理解	同上
7	5/19	講義	骨連結、関節と靭帯、脊柱の構成の理解	同上
8	5/20	講義	胸郭・上肢帯の骨格：胸骨、肋骨、鎖骨、肩甲骨の構造と胸郭運動の理解	同上
9	5/26	講義	自由上肢骨：上腕骨、前腕骨、手の骨の構造と運動の理解	同上
10	5/26	講義	胸鎖・肩鎖・肩関・肘関即、橈骨・尺骨の連結、橈骨手根・手根骨間関節の理解	同上
11	5/27	講義	下肢帯の骨格：寛骨、骨盤の構造の理解	同上
12	6/2	講義	自由下肢骨：大腿骨、膝蓋骨、下腿の骨、足の骨の理解	同上
13	6/2	講義	距腿関節、足根間関節の理解	同上
14	6/3	講義	顎頭蓋：前頭骨、頭頂骨、後頭骨、側頭骨、蝶形骨、篩骨の理解	同上
15	6/9	講義	顔面頭蓋：鼻骨、涙骨、頬骨、上顎骨、下顎骨、口蓋骨、下鼻骨、鋤骨、舌骨の理解	同上
16	6/9	講義	筋組織の種類、骨格筋の構造、筋の補助装置、骨格筋の作用と神経支配の理解	同上

17	6/9	試験	確認試験	
18	6/10	講義	頭部の筋、表情筋、咀嚼筋、 頭頸部の体表・局所解剖の理解	プリントとノートによる予習と復習
19	6/16	講義	舌骨下筋群、斜角筋、椎前筋、項部筋 の理解	同上
20	6/16	講義	胸筋：浅胸筋、深胸筋、横隔膜の理解□	同上
21	6/17	講義	腹筋：前腹筋、側腹筋、後腹筋の理解□	同上
22	6/23	講義	会陰筋、肛門挙筋、尾骨筋、外肛門括約 筋、浅・深会陰横筋、坐骨・球海綿体筋の理 解	同上
23	6/23	講義	背筋：浅背筋、深背筋、後頭下筋の理解□	同上
24	6/24	講義	屈、側屈、回旋、呼吸運動、鎖骨胸筋三角 の理解	同上
25	6/30	講義	鼠径管、尿生殖三角、肛門三角、固有背筋、 腰背腱膜、腰三角の理解	同上
26	6/30	講義	上肢帯の筋、上腕の屈筋群・伸筋群の理解□	同上
27	7/1	講義	前腕の屈筋群・伸筋群、手の筋—母指球 筋、小指球筋、中手筋の理解	同上
28	7/7	講義	下肢帯の筋、大腿の筋—伸筋群、内転筋 群、屈筋群の理解	同上
29	7/7	講義	筋—足背筋、母指球筋、小指球筋、中足筋の 理解	同上
30	7/14	講義	肩関節、肘関節、屈筋支帯と手根管、伸筋支 帯の理解	同上
31	7/14	講義	股関節、膝関節、筋裂孔と血管裂孔、大腿三 角、内転筋管の理解	
32	7/21	試験	定期試験□	プリントとノートによる予習と復習

準備学習 時間外学習

プリント、教科書、参考書を予習・復習する。

【使用教科書・教材・参考書】□

「解剖学」編集 野村巖 医学書院

「ネッター解剖学アトラス」訳 相磯貞和 南江堂

「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂

「分担解剖学 1、2、3」森 於菟 他 金原出版

「プロメテウス解剖学アトラス」監訳 板井建雄 医学書院

科目名 (英)	解剖学Ⅱ (Anatomy Ⅱ)		必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	溝口二郎
	学科・コース	理学療法科 I部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期・後期 水曜日2・3 限、木曜日2 限
教員の略歴	山形大学医学部解剖学教室を経て東北大学大学院医学系研究科准教授を歴任 医学博士							
授業の学習内容	解剖学は理解する学問であることを念頭に置き、解剖組織図で理解を深め、標本や生体に触れて、具体的な人体構造と機能を学習させる。							
到達目標	細胞学、組織学、発生学を基礎として、その上に人体の構造・機能を、系統的に理解できるようにする。							
評価方法と基準	定期試験100%。 試験問題の6割以上を正しく解答できること。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	7/14	講義	循環器系：心臓、心膜、心臓壁、心房と心室、弁膜、刺激伝導系、心臓の血管の理解	プリントとノートによる予習と復習
2	7/15	講義	動脈系—肺循環、体循環、肺動脈、上行大動脈と冠状動脈、大動脈弓の理解	同上
3	7/21	講義	動脈系—胸大動脈、腹大動脈臓側枝、総腸骨動脈の内・外腸骨動脈の理解	同上
4	7/21	講義	静脈系—肺循環、体循環、心静脈、冠状静脈洞、上大・腕頭・内頸・鎖骨下静脈の理解	同上
5	7/28	講義	静脈系—奇・半奇静脈、下大静脈、門脈系、総腸骨静脈、硬膜静脈洞の理解	同上
6	7/28	講義	胎生期の循環—胎盤、動脈管、卵円孔、臍静脈、アランチウス管、臍動脈の理解	同上
7	7/29	講義	リンパ系—リンパ、リンパ管、リンパ性器官、リンパ本幹、胸管、脾臓、胸腺、扁桃の理解	同上
8	9/1	講義	消化器系：口腔、硬口蓋、軟口蓋、扁桃、舌乳頭、味蕾、舌筋、歯、唾液腺の理解	同上
9	9/1	講義	咽頭、食道、胃、咽頭—舌扁桃、嚥下運動、食道裂孔、噴門、幽門、胃間膜の理解	同上
10	9/2	講義	小腸、大腸、腸間膜、十二指腸乳頭、腸絨毛、回盲弁、結腸ヒモ、肛門括約筋の理解	同上
11	9/8	講義	肝臓—肝門、肝小葉、洞様毛細血管、胆嚢—胆汁、胆嚢管、総胆管の理解	同上
12	9/8	講義	脾臓、腹膜、十二指腸乳頭、ランゲルハンス島、間膜、小網、大網の理解	同上
13	9/9	講義	呼吸器系：鼻腔、上・中・下鼻甲介、上・中・下鼻道、鼻粘膜、副鼻腔の理解	同上
14	9/15	講義	咽頭、咽頭筋、喉頭、喉頭筋、喉頭軟骨、声帯、声門の理解	同上
15	9/15	講義	気管、気管支、気管軟骨、肺、肺葉、肺区域、肺泡、胸膜、縦隔の理解	同上
16	9/24	試験	定期試験	
準備学習 時間外学習			プリント、教科書、参考書を予習・復習する。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				

「解剖学」編集 野村巖 医学書院
「ネッター解剖学アトラス」訳 相磯貞和 南江堂
「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂
「分担解剖学 1、2、3」森 於菟 他 金原出版
「プロメテウス解剖学アトラス」監訳 板井建雄 医学書院

科目名 (英)	解剖学実習 (Practice in Anatomy)		必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	溝口二郎
	学科・コース	理学療法科 I部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	90 (2)	開講区分	後期 水曜日2・3 限、木曜日2 限
教員の略歴	山形大学医学部解剖学教室を経て東北大学大学院医学系研究科准教授を歴任 医学博士							
授業の学習内容	解剖学の基礎知識を理解した後、実際に標本を触れて、局所解剖学により立体的な人体構造およびその機能を理解する。							
到達目標	細胞学、組織学、発生学を基礎として、その上に人体の構造・機能を、系統的に理解できるようにする。							
評価方法と基準	定期試験90%、実習10%。試験問題の6割以上を正しく解答できること。骨標本を観察して、正確なスケッチができること。							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/16	実習	泌尿器系：腎臓—腎門、腎杯、腎小体、尿管、腎臓の血管の理解	プリントとノートによる予習と復習
2	9/22	実習	尿路—尿管、膀胱、膀胱三角、尿道の理解	同上
3	9/22	実習	生殖器系：男性生殖器—精巣、精路、外生殖器、勃起、精液の理解	同上
4	9/29	実習	女性生殖器：卵巣、卵管、子宮、子宮広間膜、膣、外生殖器の理解	同上
5	9/29	実習	内分泌系：下垂体、松果体、甲状腺、上皮小体、副腎、膵臓、性腺の理解	同上
6	9/30	実習	人体発生：受精と発生—受精、卵割、着床、胚葉形成、胎盤、絨毛、羊膜、臍帯の理解	同上
7	10/6	実習	器官系発生—神経系器官、消化器系器官、循環器系器官、胎児の発生—鰓弓の理解	同上
8	10/6	実習	感覚器系：視覚器—眼球、眼球軸、強膜、角膜、脈絡膜、毛様体、色素上皮層、網膜、硝子体、水晶体、眼房水、眼の発生の理解	同上
9	10/7	実習	眼瞼、結膜、涙器、眼筋、眼窩、視覚路、眼筋と神経、視野の投射・欠損、瞳孔反射の理解	同上
10	10/13	実習	聴覚器—外耳(外耳道、鼓膜)、中耳(鼓室、耳管)、内耳(骨迷路と膜迷路)、蝸牛と蝸牛管(コルチ器)の理解	同上
11	10/13	実習	平衡感覚器—前庭と球形嚢・卵形嚢：平衡覚、骨半規管と半規管・回転運動・加速度の平衡覚の理解	同上
12	10/14	実習	味覚器—味蕾、味覚：味細胞、顔面神経、鼓索神経、舌咽神経、延髄孤束核、内側毛帯、大脳皮質の味覚野の理解	同上
13	10/20	実習	臭覚器—嗅細胞、嗅神経、嗅球、大脳皮質嗅覚領、中脳網様体(大脳辺縁系経由)の理解	同上
14	10/20	実習	神経系—神経系の発生、神経組織、中枢神経系(脳、脊髄)、抹消神経系(脳神経、脊髄神経、自律神経)の理解	同上
15	10/21	実習	中枢神経系：脊髄—脊髄の外景、脊髄の断面、脊髄の内景、白質、灰白質、前角、後角、側角、前根、後根の理解	プリントとノートによる予習と復習
16	10/27	実習	脳幹—延髄、橋、神経核、錐体、錐体交叉、目録神経の中核の理解	同上

17	10/27	実習	中脳—大脳脚、被蓋、四丘体(上丘、下丘)、網様体の理解	同上
18	10/28	実習	間脳—視床、視床下部、内側膝状体(聴覚情報中経路)、外側膝状体(視覚情報中経路)の理解	同上
19	11/4	実習	小脳—小脳脚、小脳皮質(プルキンエ細胞)、小脳核(菌状核など)の理解	同上
20	11/10	実習	大脳—大脳半球の表面と区別、中心溝、外側溝、頭頂後頭溝、前頭葉、頭頂葉、側頭葉、大脳皮質(灰白質、ブロードマン野)、大脳髓質(白質、大脳基底核)の理解	同上
21	11/10	実習	ブロードマン野と大脳皮質の機能局在、視覚野、聴覚野、味覚野、運動性言語中枢、感覚性言語中枢、連合野の理解	同上
22	11/11	実習	脳室系、脳室、室間孔、脈絡叢、第4脳室外側口・正中口、髄膜—硬膜、クモ膜、軟膜の理解	同上
23	11/17	実習	脳脊髄液、脳の血管、反射路の理解	同上
24	10/27	実習	確認試験	
25	11/17	実習	上行性伝導路Ⅰ—体性感覚の伝導路、後索路、脊髓視床路、脊髓小脳路の理解	プリントとノートによる予習と復習
26	11/18	実習	上行性伝導路Ⅱ—視覚・聴覚・平衡覚・味覚・嗅覚の伝導路の理解	同上
27	11/24	実習	下行性伝導路—錐体路系、錐体外路系の理解	同上
28	11/24	実習	末梢神経系: 脳神経Ⅰ～Ⅳ—嗅神経、視神経、動眼神経、滑車神経の理解	同上
29	11/25	実習	脳神経Ⅴ～Ⅷ—三叉神経、外転神経、顔面神経、内耳神経の理解	同上
30	12/1	実習	脳神経Ⅸ～Ⅻ—舌咽神経、迷走神経、副神経、舌下神経の理解	同上
31	12/1	実習	節構造と神経叢、頭頸部の神経、頸神経(C1～C8)、頸神経叢(C1～C4)の理解	同上
32	12/2	実習	上肢帯と上肢の神経、腕神経叢(C5～T1)の理解	同上
33	12/8	実習	腕神経叢の枝(鎖骨上肢、鎖骨下枝)、肩甲上神経、筋皮神経、尺骨神経、橈骨神経、正中神経などの理解	同上
34	12/8	実習	胸部・腹部の神経、胸神経(12対)、肋間神経(T1～T11)、肋下神経(T12)の理解	同上
35	12/15	実習	腰部・殿部・下肢への神経、腰神経と腰神経叢、腰神経叢の枝、腸骨下腹神経、大腿神経、閉鎖神経などの理解	同上
36	12/15	実習	殿部・陰部・下肢への神経—仙骨神経と仙骨神経叢、上・下殿神経、坐骨神経、陰部神経などの理解	同上
37	12/16	実習	自律神経系—交感神経系(胸・腰髄T1～L2、3)、交感神経幹の理解	同上
38	1/6	実習	副交感神経系(脳幹、仙髄S2～S4)、腸管の神経支配(交感・副交感神経系+腸管壁内神経系)の理解	同上
39	1/12	実習	頭蓋骨の主要部分の確認とスケッチ—頭蓋の骨とその連絡、頭蓋・脊柱の関節構成体の理解	プリントとノートによる予習と復習
40	1/12	実習	椎骨、胸骨、肋骨のスケッチ—脊柱と胸郭、胸郭の関節構成体と連結の理解	同上
41	1/13	実習	肩甲骨、鎖骨、上腕骨のスケッチ—上肢帯の連結と肩関節、肩甲骨、鎖骨、上腕骨近位側、筋の起始・停止の確認	同上
42	1/6	実習	上腕骨・尺骨・橈骨のスケッチ—橈尺関節の運動、肘関節と靭帯、筋の起始・停止の確認	同上
43	1/19	実習	手根骨・指骨と手関節・指節間関節のスケッチ—筋の起始・停止の確認	同上
44	1/19	実習	寛骨・大腿骨のスケッチ—寛骨・大腿骨と股関節・骨盤、下肢帯と連結、運動と靭帯、筋の起始・停止の確認	同上
	1/19	試験	定期試験	
45	1/20	実習	脛骨・腓骨・膝蓋骨のスケッチ—脛骨・腓骨・膝蓋骨と膝関節、運動と靭帯、筋の起始・停止の確認	プリントとノートによる予習と復習
46	1/26	実習	距骨・踵骨・中足骨・足の指骨のスケッチ—中足骨・指骨と足の関節の確認、体表解剖、体表輪郭と触知できる骨部分、基準線の理解	同上
準備学習 時間外学習			プリント、教科書、参考書を予習・復習する。	

【使用教科書・教材・参考書】 □

「解剖学」編集 野村嶺 医学書院
「ネッター解剖学アトラス」訳 相磯貞和 南江堂
「入門人体解剖学」藤田恒夫 南江堂
「分担解剖学 1、2、3」森 於菀 他 金原出版
「プロメテウス解剖学アトラス」監訳 板井建雄 医学書院

科目名 (英)	生理学 I (Physiology I)		必修 選択	必修	年次	1	担当教員	川上智史
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分	前期 土曜 1限
教員の略歴	博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事							
授業の学習内容	人間の体は複雑な構造をしている。しかし必要の無い臓器は一切無く、それぞれが生命維持のために役割を果たしている。生理学 I においては細胞レベルから臓器レベルまで簡単な構造について学び、それぞれの機能を理解する。							
到達目標	理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学習する。							
評価方法と基準	筆記試験80%、授業態度10%、課題レポート10%							

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/29	講義	人体とは何か、人体を表す基準について理解できる	教科書を読んでおくこと
2	6/12	講義	細胞と組織の生理学的差異について理解できる	教科書を読んでおくこと
3	6/19	講義	血液、血液の概要を理解できる	教科書を読んでおくこと
4	6/26	講義	造血のメカニズムを理解できる	教科書を読んでおくこと
5	7/3	講義	赤血球の構造と働きを理解できる	教科書を読んでおくこと
6	7/10	講義	赤血球の破壊について理解できる	教科書を読んでおくこと
7	7/17	講義	血液型・メンデルの法則を理解できる	教科書を読んでおくこと
8	7/24	講義	血小板の作用について理解できる	教科書を読んでおくこと
9	7/31	講義	血漿、血液凝固因子、カスケード反応について理解できる	教科書を読んでおくこと
10	8/30	講義	白血球を中心とした生体防御作用について理解できる	教科書を読んでおくこと
11	8/30	講義	非特異的防御機構について理解できる	教科書を読んでおくこと
12	8/31	講義	特異的防御機構について理解できる。また細胞性免疫・液性免疫の違い、抗体産生の流れについても理解できる	教科書を読んでおくこと

13	9/6	講義	体液について理解できる	教科書を読んでおくこと
14	9/6	講義	酸塩基平衡について理解できる	教科書を読んでおくこと
15	9/7	講義	体温のメカニズムを理解できる	教科書を読んでおくこと
16	9/13	講義	外皮・発汗作用について理解できる	教科書を読んでおくこと
17	9/13	講義	骨の機能について理解できる	教科書を読んでおくこと
18	9/14	講義	骨のリモデリングについて理解できる	教科書を読んでおくこと
19	9/21	講義	骨格筋の機能について理解できる	教科書を読んでおくこと
20	9/27	講義	筋収縮のメカニズムを理解できる	教科書を読んでおくこと
21	9/27	講義	循環器概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
22	9/28	講義	体循環と肺循環を理解できる	教科書を読んでおくこと
23	10/5	講義	心臓の生理について理解できる	教科書を読んでおくこと
24	10/12	講義	心電図について理解できる	教科書を読んでおくこと
25	10/18	講義	循環器の生理を理解できる	教科書を読んでおくこと
26	10/18	講義	呼吸器の概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
27	10/19	講義	スパイロメーター・酸素解離曲線について理解できる	教科書を読んでおくこと
28	10/25	講義	消化管の全容を理解できる	教科書を読んでおくこと
29	10/25	講義	胃酸を含む消化酵素について理解できる	教科書を読んでおくこと
	11/10	試験	筆記試験	
30	10/26	講義	肝胆膵の役割について理解できる	教科書を読んでおくこと
準備学習 時間外学習		講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり		
【使用教科書・教材・参考書】 □ ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版)				

科目名 (英)	生理学Ⅱ (Physiology II)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	川上智史
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期 月(火) 曜日・時限 1・2限(2限)
教員の略歴	博士(医学)を2006年に取得し、生理学を中心に公衆衛生学、医学概論等を各種専門学校で教授。 現在、大学にて公衆衛生学研究室に所属し、がん細胞の生理学的特徴の研究に従事						
授業の学習内容	人間の体は複雑な構造をしている。しかし必要の無い臓器は一切無く、それぞれが生命維持のために役割を果たしている。生理学Ⅱにおいては臓器レベルでそれぞれの機能を理解する。						
到達目標	理学療法士に必要な人体の機能(筋・神経、呼吸・循環、消化・吸収など)について学習する。						
評価方法と基準	筆記試験80%、授業態度10%、課題レポート10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	11/2	講義	泌尿器系の概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
2	11/8	講義	尿の生成・再吸収について理解できる	教科書を読んでおくこと
3	11/8	講義	レニン・アンジオテンシン・アルドステロン系について理解できる	教科書を読んでおくこと
4	11/9	講義	内分泌について理解できる	教科書を読んでおくこと
5	11/15	講義	ホルモン・ホルモンレセプターを理解できる	教科書を読んでおくこと
6	11/15	講義	各種ホルモンを理解できる①	教科書を読んでおくこと
7	11/16	講義	各種ホルモンを理解できる②	教科書を読んでおくこと
8	11/22	講義	各種ホルモンを理解できる③	教科書を読んでおくこと
9	11/22	講義	神経系の概要について理解できる	教科書を読んでおくこと
10	11/29	講義	α - γ 連関など神経伝達について理解できる	教科書を読んでおくこと
11	11/29	講義	活動電位について理解できる	教科書を読んでおくこと
12	11/30	講義	記憶など脳機能について理解できる	教科書を読んでおくこと
13	12/6	講義	特殊感覚について理解できる①	教科書を読んでおくこと
14	12/6	講義	特殊感覚について理解できる②	教科書を読んでおくこと
	12/15	試験	筆記試験	

15	12/7	講義	生殖器系の生理について理解できる	教科書を読んでおくこと
準備学習 時間外学習		講義参加前に指定教科書の該当ページを読み、予習する必要あり		
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				
ナーシング・グラフィカ人体の構造と機能① 解剖生理学(メディカ出版)				

科目名 (英)	生理学実習 (Practice in Physiology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	梶原一将 高橋未倫
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	実習	総時間 (単位)	45 (1)	開講区分	後期 火曜日 3・4
教員の略歴	【梶原】2014年より理学療法士として急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリ勤務を経て、現在に至る。 【高橋】2011年より理学療法士として急性期、慢性期勤務を経て、現在に至る。						
授業の学習内容	実習を通じて体験することで理学療法における評価・治療と生理学の知識をつなげるために、実習を行う。						
到達目標	生理学実習を通して、座学で学んだ生理学をより深く掘り下げることで、明確な知識を取得することを目標とする。						
評価方法及び基準	<ul style="list-style-type: none"> ・レポート: 20% ・授業内評価: 20% ・発表: 60% 						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	8/31	実習	教科ガイダンス	プリントを確認
2	8/31	実習	該当範囲となる領域の生理学的知識を整理し、実習の準備をする。	生理学の復習
3	9/7	実習	①体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。	評価の予習復習
4	9/7	実習	②体性感覚-表在感覚についての実習を実施する。	評価の予習復習
5	9/14	実習	①体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。	評価の予習復習
6	9/14	実習	②体性感覚-深部感覚についての実習を実施する。	評価の予習復習
7	9/21	実習	①血圧測定についての実習を実施する。	評価の予習復習
8	9/21	実習	②血圧測定についての実習を実施する。	評価の予習復習
9	9/28	実習	①体力測定についての実習を実施する。	評価の予習復習
10	9/28	実習	②体力測定についての実習を実施する。	評価の予習復習
11	10/5	実習	①運動負荷時の生理的变化について実習を実施する。	評価の予習復習
12	10/5	実習	②運動負荷時の生理的变化について実習を実施する。	評価の予習復習
13	10/12	実習	①筋電図についての実習を実施する。	評価の予習復習
14	10/12	実習	②筋電図についての実習を実施する。	評価の予習復習
15	10/19	実習	①心電図についての実習を実施する。	評価の予習復習
16	10/19	実習	②心電図についての実習を実施する。	評価の予習復習
17	10/26	実習	①肺機能検査についての実習を実施する	評価の予習復習
18	10/26	実習	②肺機能検査についての実習を実施する	評価の予習復習
19	11/2	実習	実習内容のまとめ	評価の予習復習
20	11/2	実習	実習内容のまとめ	評価の予習復習
21	11/9	実習	発表準備	各グループで発表準備
22	11/16	実習	発表準備	各グループで発表準備
	11/22	発表	発表	
23	11/16	講義	総括	
準備学習 時間外学習			評価の予習復習	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
「生理学実習実習書」 仙台医健・スポーツ&こども専門学校テキスト				

科目名 (英)	運動学 (Kinesiology)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	今野 良紀
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	前期 月曜 1・2限
教員の略歴	大学卒業後、病院にて回復期リハビリと介護保険領域のリハビリテーションを経験。専門学校教員としての教務とともに、市区町村からの介護予防委託事業や、理学療法士を対象とした講習会運営などに携わっている。						
授業の学習内容	①解剖学的知識から生体力学や運動と動作の分析、運動学習等、人間の運動の科学を学習する。 ②身体運動についての運動学的な用語や表現方法を学習する。 ③健康者同士の体験課題をもとに、関節や筋の知識と実際の身体イメージを関連付けて理解する。						
到達目標	①身体運動における面と軸、基本的肢位を理解し説明できる。 ②各関節の構造と機能について特徴を説明できる。 ③筋の起始・停止、作用、神経支配について説明できる。						
評価方法及び基準	筆記試験：100%						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)			
1	4/12	講義	生体力学基礎運動学の概念を理解する。運動面と軸の関係を説明できる。	講義内容の復習			
2	4/12	講義	身体運動と力学ベクトルとモーメントの概念を説明できる。	講義内容の復習			
3	4/19	講義	運動器の構造と機能を学び、可動関節の種類、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
4	4/19	講義	骨格筋の特徴について説明できる。	講義内容の復習			
5	4/26	講義	①肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
6	4/26	講義	②肩複合体の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
7	5/10	講義	①肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
8	5/10	講義	②肘関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
9	5/17	講義	①手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
10	5/17	講義	②手関節・手指の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
11	5/24	講義	①股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
12	5/24	講義	②股関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
13	5/31	講義	①膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
14	5/31	講義	②膝関節の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
	6/23	中間試験					
15	6/14	講義	①足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	《授業ノート提出①》			
16	6/14	講義	②足関節・足部の構造と筋を理解し、骨運動と関節包内運動について説明できる。	講義内容の復習			
17	6/21	講義	脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(頸椎)	講義内容の復習			
18	6/21	講義	脊柱の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。(胸・腰椎)	講義内容の復習			
19	6/28	講義	顎関節の構造、運動について特徴を理解し、説明できる。	講義内容の復習			
20	6/28	講義	姿勢と姿勢制御について、重心と支持基底面の関係から説明できる。	講義内容の復習			
21	7/5	講義	外乱動揺時の姿勢制御、姿勢制御における感覚機構の働きについて説明できる。	講義内容の復習			
22	7/5	講義	歩行周期について身体重心移動、下肢関節運動の観点から理解を深め、説明できる。	講義内容の復習			
23	7/12	講義	歩行時に必要な筋活動を理解し、異常歩行との関連性を説明できる。	講義内容の復習			
24	7/12	講義	①運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	講義内容の復習			
25	7/19	講義	②運動と動作の分析について基本的概念と用語を理解する。	講義内容の復習			
26	7/19	講義	①ヒトの成長過程と運動発達の関係と姿勢反射について要点を説明できる。	講義内容の復習			
27	7/26	講義	②ヒトの成長過程と運動発達の関係と姿勢反射について要点を説明できる。	講義内容の復習			
28	7/26	講義	①運動学習の特徴を理解し、練習と訓練に必要な知識を説明できる。	講義内容の復習			
29	8/30	講義	②運動学習の特徴を理解し、練習と訓練に必要な知識を説明できる。	講義内容の復習			
30	8/30	講義	まとめ	《授業ノート提出②》			
	9/6	試験					
準備学習 時間外学習			予習復習				
【使用教科書・教材・参考書】 □ 基礎運動学 第6版 改訂(医歯薬出版) 標準理学療法学・作業療法学 解剖学 第5版(医学書院) 国試の達人 運動解剖生理学編 理学療法科学学会編							

科目名 (英)	人間発達学 (Human Development)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	江崎浩明
	学科・コース	理学療法科 I部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限
教員の略歴	大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。						
授業の学習内容	生まれてから亡くなるまでの生涯を通し、どのように発達していくのかを、乳児期・幼児前期・幼児後期・児童期・青年期・成人前期・成人期・高齢期の各発達段階に分け、またその過程で直面する様々な発達課題について学びます。出生から見られる原始反射や身体的な変化、発達スクリーニング検査等についての知識を得ることで、身体的な”成長”と精神的な”発達”の両側面から人間の変化を捉えることが出来る視点を身につけます。						
到達目標	各発達段階と発達課題を理解し、それぞれに適した養育的・尊重的かかわりが出来るようになる。 乳児期から幼児前期・幼児後期にかけての標準的な成長・発達の過程を説明できるようになる。 自分自身の発達について、長期的スパンで捉えられるようになる。						
評価方法と基準	定期試験100%(選択式と記述式)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/1	講義	講義の進め方、教科書の使い方、ノートのとり方、評価方法を理解する。	成長と発達の違いについて考えておく
2	9/8	講義	成長と発達の違いについて説明できる。	数値や目に見える形で変化するものと、話したり行動して初めて違いがわかるものについて考えておく
3	9/15	講義	発達概念の歴史の変遷について説明できる。	”こども”と”おとな”の社会的責任や役割の違いについて考えておく
4	9/17	講義	エリクソンの漸成的発達段階の概要について説明できる。	人間の発達に、年齢によってどのような違いがあるのかを考えておく
5	9/22	講義	胎児期・周産期や原始反射について説明できる。	母子手帳等を用いて自分の”生まれ”について考えておく
6	9/29	講義	新生児・乳児期の課題(生理的早産・臨界期・気質論等)について説明できる。	乳幼児にとつての安全な環境や危険な環境について・他の動物との生まれの違いについて考えておく
7	10/1	講義	幼児前期の課題(歩行と言語獲得・分離不安等)について説明できる。	幼児の行動範囲の広がりや興味関心について考えておく
8	10/6	講義	幼児後期の課題(トイレトレーニング、性別の理解等)について説明できる。	自分がいつオムツを使わなくなったか、性別の違いについて認識し始めたのはいつか、考えておく
9	10/8	講義	児童期の課題(劣等感の形成・ギャングエイジ・不登校やいじめ等)について説明できる。	小学生の頃に持っていた劣等感や、もの周りにおきたいじめや不登校について考えておく
10	10/13	講義	青年期(アイデンティティとモラトリアム、NEET等)について説明できる。	今現在の将来になりたい自分像や、将来への迷いについて考えておく
11	10/15	講義	成人前期(生殖性・過程や仕事に対する停滞感・倦怠感等)について説明できる。	5年後・10年後のなりたい自分像について考えておく
12	11/8	講義	成人期の課題(更年期障害・空の巣症候群・熟年離婚等)について説明できる。	自分の親世代が直面している課題・問題について考えておく
13	11/8	講義	高齢期の課題(喪失・孤独・老老介護・生きがいの再設定・死の受容過程等)について説明できる。	自分の祖父母世代が直面している課題・問題について感gなえておく
14	11/15	講義	これまでに学んだ心理用語・概念について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
	11/19		試験	
15	11/15	講義	まとめ	
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
生涯人間発達学 第2版 (医学書院)				

科目名 (英)	医学概論 (Introduction to Medicine)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	鈴木寿則
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 2	開講区分	後期(金 曜)2・3限 (1・2限)
教員の略歴	平成17年東北大学医学系研究科博士号取得. 平成21年より東北大学医学系研究科非常勤講師.						
授業の学習内容	この授業は、理学療法士として必要な医学に関する法律の知識を学習するためのものです。他に関連する科目として、生理学及び病理学と関係します。受講生に対する要望として、授業をつうじて自分なりに学修成果をまとめる能力を養って頂きたいと思います。そのために、授業の展開として、教科書を中心に講義を行い、保健医療福祉関係について、基礎的な知識を学修します。						
到達目標	①医療及び健康の概念について説明できる。 ②生活習慣病に関する靱帯の機能及び構造について説明できる。 ③医療に関する制度及び法律について説明できる。						
評価方法と基準	定期試験80%、出席数20%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1/7	講義	細胞について説明できる。	教科書による通読
2	1/7	講義	健康の定義について説明できる。	教科書による通読
3	1/14	講義	予防医学について説明できる。	教科書による通読
4	1/14	講義	健康日本21(第二次)について説明できる。	教科書による通読
5	1/21	講義	スクリーニングについて説明できる。	教科書による通読
6	1/21	講義	疫学研究について説明できる。	教科書による通読
7	1/28	講義	疫学研究の種類について説明できる。	教科書による通読
8	1/28	講義	疫学指標について説明できる。	教科書による通読
9	2/4	講義	がんについて説明できる。	教科書による通読
10	2/4	講義	心疾患について説明できる。	教科書による通読
11	2/18	講義	高血圧及び糖尿病について説明できる。	教科書による通読
12	2/18	講義	脳血管疾患について説明できる。	教科書による通読
13	2/25	講義	呼吸器疾患について説明できる。	教科書による通読
14	2/25	講義	メンタルヘルスについて説明できる。	教科書による通読
15	3/4	試験		
16	3/4	講義	試験の解答および解説	教科書による通読
準備学習 時間外学習			あらかじめ教科書を通読し、講義内容の概略を把握しておくことを目的とする。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
岡本悦政 編著『Active Aging 健康管理学』(八千代出版)				

科目名 (英)	病理学 (pathology)	必修 選択	必修	年次	1年次	担当教員	大沼 英子
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 1	開講区分 曜日・時限	後期 金曜 5限
教員の略歴	東北大学歯学部卒業後、同大学院医学研究科病理学系にて解剖、病理を学び、歯科医師として臨床現場で活躍しながら1995年より専門学校にて非常勤講師を務める。						
授業の学習内容	疾患の原因・経過及び症状をトータルな生命現象として理解し、細胞・組織・臓器・物質レベルで学習することで病的状態の分類・概論の基礎を習得する。さらに、疾患を理解するために各臓器に関する病変を病理学的に学ぶ。						
到達目標	疾病における臓器、組織、細胞の形態変化を理解し、各臓器に関する病変を病理学的に学ぶことで臨床医学と関連させた疾患の認識と理解を深める。						
評価方法と基準	定期試験 70% レポートおよび出席状況、授業態度等の定常点30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/17	講義	病理概説 病理の業務 疾患の一般	病理学の業務と関係用語を説明できる
2	9/24	講義	病因論1 内因	疾患の原因(内因)を説明できる
3	10/1	講義	病因論2 外因①	疾患の原因(栄養障害)を説明できる
4	10/8	講義	病因論3 外因②	疾患の原因(物理的外因)を説明できる
5	10/15	講義	病因論4 外因③	疾患の原因(化学的外因)を説明できる
6	10/22	講義	病因論5 外因④	疾患の原因(生物学的外因)を説明できる
7	10/29	講義	細胞障害1(定義・萎縮・変性)	細胞障害で起こる現象を説明できる
8	11/5	講義	細胞障害2(代謝障害と疾患、壊死)	代謝障害で起こる現象を説明できる
9	11/12	講義	循環障害	循環障害で起こる現象を説明できる
10	11/19	講義	進行性病変	細胞の修復過程を説明できる
11	11/26	講義	炎症	炎症で起こる現象を説明できる
12	12/3	講義	免疫①	免疫に関わる細胞とシステムを説明できる
13	12/10	講義	免疫②	免疫異常によって起こる疾患を説明できる
14	12/17	講義	腫瘍①	腫瘍とはどのようなものかを説明できる
15	1/18	試験		
16	1/7	講義	腫瘍②・先天性異常	先天性異常の原因、疾患を説明できる
準備学習 時間外学習		解剖学・生理学等関連する内容について、必要に応じて確認しながら理解を深めてほしい		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
病理学 第4版 (標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 医学書院				

科目名 (英)	臨床心理学 (Clinical Psychology)	必修 選択	必修	年次	2	担当教員	江崎浩明
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	60 (2)	開講区分 曜日・時限	後期 木曜 3限
教員の略歴	大学院にて心理学を専攻。その後、産業・学校・医療領域にて約15年間、教育、相談業務に従事。						
授業の学習内容	他の心理学との違いや精神医学・社会心理学等周辺領域との関係性について学ぶことで、心の問題を理解するために必要な臨床心理学的視点の獲得を目指します。そのために、ある人間の今を「人格理論」から、なぜそうなったかを「発達理論」から類推し、面接技法や心理検査も用いて仮説-検証していくモデルを学びます。また、さまざまな精神症状・精神疾患の特徴を学ぶことによって、「なんか変な人・おかしい人」という捉え方から「何らかの特徴によって生き辛さを感じている人」という捉え方にシフトし、差別的な関わりからより援助的な関わりができるように多様な視点の獲得を試みます。これらを学ぶ過程から、自分自身に対する劣等感や不全感を軽減し、問題を抱えながらもそれと上手に折り合いをつけ、たくましく生きていける精神的タフさ・粘り強さの獲得を目指します。						
到達目標	一般的又は医学的な問題把握ではなく、医学が捉えきれない心の問題について、臨床心理学的視点で捉えることができるようになる。 正常レベル・神経症レベル・精神病レベルの違いや、病識の有無、病態水準の概念について理解する。 代表的な人格理論と発達理論を学び、さらに各心理臨床家の人を捉える視点や枠組みの違いについて理解する。 他者理解のためにどのような情報が手がかかりとなるかについて理解する。						
評価方法及び基準	定期テスト(前期50%、後期50%) 国家試験出題レベルのマークシート方式						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	9/2	講義	他の心理学との関連性や独自性を説明できる。	これまで学んだ心理学用語や概念を復習しておく。
2	9/9	講義	従来の医学的視点ではなく、臨床心理学的視点で捉えることの重要性を説明できる。	医学で用いられる検査や機器では測定できない問題について考えておく。
3	9/16	講義	予後・過剰適応・過剰防衛や、完治・根治と寛解の違いを説明できる。	人に何かを頼まれたら断りにくいタイプか、嫌なら平気で断れるタイプかを考えておく。
4	9/30	講義	表面に現れている発熱や頭痛等の症状と、その原因を同時並行に捉え対処する必要性を説明できる。	これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。
5	10/7	講義	「元通りになること」とより適応的に変化することの違いについて説明できる。	これまでの人生でぶつかった壁や挫折について思い出しておく。
6	10/14	講義	DSM-5(診断基準)の内容と、正常レベル・神経症レベル・精神病レベルについて説明できる。	自分の中で心の問題の重さや軽さの基準について考えておく。
7	10/21	講義	人格理論Ⅰ Freudの精神分析理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	意識と無意識、自分の欲求とそれを抑える気持ちについて考えておく。
8	10/28	講義	人格理論Ⅱ Jungの分析的心理学理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	自分の中の理想的な同性像・異性像、社会的な役割の仮面について考えておく。
9	11/4	講義	人格理論Ⅲ Rogersの来談者中心療法の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	受容と共感に代表される現代のカウンセリングのイメージについて考えておく。
10	11/11	講義	発達理論Ⅰ Mahler, Winnicottの発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	乳幼児期にいつも肌身離さず持ち歩いてきた物を思い出しておく。
11	11/18	講義	発達理論Ⅱ Eriksonの漸成的発達理論の特徴とキーワード、捉え方について説明できる。	乳児期から高齢期までの8段階の発達段階と発達課題を復習しておく。
12	11/25	講義	他者理解のための基礎的情報(家計図の見方、既往歴・現病歴等)の扱い・捉え方について説明できる。	"他者を理解するために集める情報"にはどのようなものがあるかについて考えておく。
13	12/2	講義	心理検査Ⅰ 種類と分類、代表的な発達検査と知能検査について説明できる。	心理テストと心理ゲームの違いや、古いオーラ等と何が違うかについて考えておく。
14	12/9	講義	復習： これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
15	12/16	講義	解説	
16	1/6	講義	心理検査Ⅱ 代表的な性格検査(質問紙法・投影法・作業検査法)について説明できる。	性格検査で測定可能なことと想定不可能なことは何かを考えておく。
17	1/13	講義	アセスメントⅠ 自閉スペクトラムについて説明できる。	自閉症と聞いてどのような病態像が頭に浮かぶかを考えておく。
18	1/20	講義	アセスメントⅡ AD/HD・学習障害を含む発達障害について説明できる。	落ち着きが無い子、動き回る子や、発達障害の病態像について考えておく。
19	1/27	講義	アセスメントⅢ 情緒障害・母性別察症候群・虐待・不登校・知的能力障害等について説明できる。	自分や自分のまわりで居た不登校やひきこもりについて思い出しておく。
20	2/3	講義	アセスメントⅣ 不安障害・パニック障害・摂食障害等について説明できる。	自分が抱える不安の種類・強度・持続期間について考えておく。
21	2/10	講義	アセスメントⅤ うつ病・双極性障害について、その特徴や治療について説明できる。	うつ病について、知っていることやイメージをまとめておく。
22	2/10	講義	アセスメントⅥ 統合失調症について、その特徴や治療について説明できる。	統合失調症の病態像について考えておく。
23	2/17	講義	アセスメントⅦ 認知症(アルツハイマー、脳血管性、レビー小体型、前頭側頭型)について説明できる。	認知症の種類や症状の違いについて考えておく。
24	2/17	講義	心理療法Ⅰ 非指示的心理療法・クライエント中心療法について説明できる。	"カウンセリング"と言われて頭にとどのようなイメージが湧くかを考えておく。
25	2/24	講義	心理療法Ⅱ 精神分析・分析的心理学について説明できる。	気がついたら無意識のうちに何かやっちゃってしまっていたことを思い出しておく。
26	2/24	講義	心理療法Ⅲ 遊戯療法・音楽療法・箱庭療法・コラージュについて説明できる。	まだ上手く言葉で辛さや不安を表現できない子どもへのサポート方法を考えておく。
27	3/3	講義	心理療法Ⅳ 自律訓練法・家族療法・森田療法について説明できる。	自分の家族のそれぞれの人間関係について考えておく。
28	3/3	講義	心理療法Ⅴ 認知行動療法について説明できる。	辛いときやストレスでつぶれそうな時、いつも頭に浮かぶ事やとってしまう行動について考えておく。
29	3/10	講義	これまでに学んだ用語・概念・理論について説明できる。	それぞれの単元の理解度をチェックしておく
	3/9		試験	
30	3/10	講義	聴くスキル 演習	自分にとって大事・大切な人が困っている時を想定しておく。
準備学習 時間外学習			学んだ概念を、日々の生活で感じ・思い返して復習してください。	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
心とかかわる臨床心理 基礎・実践・方法[第3版] (ナカニシヤ出版)				

科目名 (英)	リハビリテーション医学 (Rehabilitation Medicine)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	奈良隆寛
		授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 -15	開講区分	後期 土曜 1・2限
学科・コース	理学療法科 I 部						
教員の略歴	1980年慈恵医大卒業後、慈恵医大付属病院、埼玉県立小児医療センター、北九州市立総合医療センターを経て2003年より宮城県立こども病院リハビリテーション科リハビリテーション部長(医師)として勤務						
授業の学習内容	①医療の中でリハビリテーションがどのような位置づけにあるか学習する ②2・3年生で学ぶ臨床医学(内科学・小児科学・整形外科学など)のどこにリハビリが関係するのか知るために学習する ③臨床医学への導入として知識を整理しておく ④臨床ででてくる各疾患について解説し、そこにどのようにリハビリを導入していくかを開設する						
到達目標	①いろいろな疾患の概念を学ぶ ②脳・神経・筋肉・骨の構造と機能それに関連する疾患の病態を知る ③疾患の治療について理解をえる ④治療とリハビリとの関係について理解する						
評価方法と基準	①テスト60%・模擬テスト40%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	11月27日	講義	リハビリテーション医学の流れを説明できる	テキスト1～18頁を予習
2	11月27日	講義	患者の状態について評価・説明できる	テキスト19～62頁を予習
3	12月4日	講義	リハビリ治療について説明できる	テキスト76～96頁を予習
4	12月4日	講義	リハビリに関係する検査について説明できる	テキスト65～75頁を予習
5	1月8日	講義	脳性麻痺の症候から治療まで説明できる	テキスト181～203頁を予習
6	1月8日	講義	リウマチ・関節疾患の治療を説明できる	テキスト160～180頁を予習
7	1月22日	講義	神経筋疾患の症候からリハ治療まで説明	テキスト204～220頁を予習
8	1月22日	講義	内部疾患の症候からリハ治療まで説明	テキスト287～311頁を予習
9	1月26日	講義	脊椎疾患の症候からリハ治療まで説明	テキスト267～286頁を予習
10	1月26日	講義	外傷の症候からリハ治療まで説明	テキスト248～266頁を予習
11	2月5日	講義	脳疾患の症候からリハ治療まで説明	テキスト97～130頁を予習
12	2月5日	講義	末梢神経疾患の症候からリハ治療まで説明	テキスト221～286頁を予習
13	2月16日	模試	今まで習ったことを確認する	1か月間で総復習
14	2月16日	模試	今まで習ったことを確認する	1か月間で総復習
15	2月26日	本試験解説	今まで習ったことを再確認する	本試験の解説
16	2月26日	期末試験		
準備学習 時間外学習			予習・復習をする	
【使用教科書・教材・参考書】「リハビリテーション医学テキスト」(南江堂)				

科目名 (英)	コミュニケーション論 (Communication)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	片岡
学科・コース	理学療法科 ・ I部Aクラス	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分 曜日・時限	前期 火曜 2時限
教員の略歴	教員歴5年、300人以上の学生のコミュニケーションを指導した経験を有する						
授業の学習内容	事前学習を行い、当日授業は、「導入」、「事前学習の発表会」、「解説」、「演習(ワーク)」、「グループ学習」、個人の「振り返り」で構成される。 これらの内容を通して、自分の意見を持ち、人の考えを正しく汲み取ることの難しさを知る。 そして、自分の考えを大切にすること、皆で決めたことを守ることを両立する態度を身につけ、自己信頼を育むことが出来るようになる。						
到達目標	受講者(学生)が「聞く、話す、読む、書く」ということばを使ったコミュニケーションを上手に行うための基本的な技法(目の付け所と、方法)を知り、それを(何度も使うことにより)使う「習慣」を身につけることを目指す。						
評価方法と基準	レポート(指定のワークブック) 70%・ 出席率30%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4/6	講義・演習	理学療法士に必要なコミュニケーションを説明できる	資料配布
2	4/13	講義・演習	コミュニケーション技法について述べるができる	指定教科書該当ページの予読
3	4/20	講義・演習	ブレインストーミング法、KJ法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
4	4/27	講義・演習	聞き上手の技法を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
5	4/27	講義・演習	話し上手の技法を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
6	5/11	講義・演習	読み上手の技法①を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
7	5/11	講義・演習	読み上手の技法②を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
8	5/25	講義・演習	書き上手の技法を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
9	6/1	講義・演習	テーマ探しの技法を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
10	6/8	講義・演習	自分探しの技法①を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
11	6/15	講義・演習	自分探しの技法②を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
12	6/22	講義・演習	インタビュー仕事の基本的技術を述べるができる	指定教科書該当ページの予読
13	6/29	講義・演習	コミュニケーション技法における要点の整理①を説明できる	指定教科書該当ページの予読
14	7/6	講義・演習	コミュニケーション技法における要点の整理②を説明できる	指定教科書該当ページの予読
15	7/13	講義・演習	コミュニケーション技法の活用方法を説明できる	指定教科書該当ページの予読
準備学習 時間外学習			グループ学習を毎回実施するにあたり課題を出す	
【使用教科書・教材・参考書】 □				
コミュニケーション技法(キャリア教育総合研究所)、コミュニケーション技法ワークブック(キャリア教育総合研究所)				

科目名 (英)	リハビリテーション概論 (Intoroduction to Rehabilitation)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	丸屋健
学科・コース	理学療法科 I部 Aクラス	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分	前期 火:1限
教員の略歴	2012年4月～2017年3月 回復期病院 リハビリテーション部 勤務。 2017年5月～高齢者の健康増進教室。						
授業の学習内容	リハビリテーションの歴史や概念など理解し、また障害や医療保険制度についても学習する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自身の中でのリハビリテーションの強いイメージを作る ・職業意識を高め、理学療法士養成校で学ぶ学問の意味を知る 						
評価方法と基準	1)レポート課題 (100%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5月25日	講義	リハビリテーションに対するイメージを作ることができる。 リハビリテーションの存在意義を知ることができる。	講義内容の復習
2	6月1日	講義	リハビリテーションの職域や活躍場面について知ることができる。	講義内容の復習
3	6月8日	講義	リハビリテーションの具体的展開について知ることができる。	講義内容の復習
4	6月15日	講義	疾病と傷害の関係について学ぶことができる。 ICIDHとICFについて知ることができる。	講義内容の復習
5	6月22日	講義	各病棟、病気で役割や仕事について学ぶことができる。	講義内容の復習
6	6月29日	講義	廃用症候群と二次合併症について学ぶことができる。	講義内容の復習
7	7月6日	講義	作業療法士、言語聴覚士、義肢装具士の役割について知ることができる。	講義内容の復習
8	7月13日	講義	医学的リハビリテーションに関わる専門職の役割について知ることができる。	講義内容の復習
9	7月20日	講義	職業、社会、教育におけるリハビリテーションについて知ることができる。	講義内容の復習
10	7月27日	講義	障害のある人の家族の問題を理解することができる。	講義内容の復習
11	8月31日	講義	車椅子の種類や選択、福祉機器、福祉用具の種類や選択について学ぶことができる。	講義内容の復習
12	9月7日	講義	身体障害福祉法や介護保険法について学ぶことができる。	講義内容の復習
13	9月14日	講義	機能障害の評価方法について知ることができる。	講義内容の復習
14	9月21日	講義	身体機能と各障害の関連性について知ることができる。	講義内容の復習
15	9月28日	講義	自身の理学療法士としての将来像をイメージし、発表することができる。	講義内容の復習
準備学習 時間外学習			講義内容の復習	
【使用教科書・教材・参考書】 <input type="checkbox"/>				

科目名 (英)	理学療法概論 (Introduction to PT)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	梶原一将
学科・コース	理学療法科 I部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 月曜日 曜日・時限 3・4時限
教員の略歴	2014年より理学療法士として急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリ勤務を経て、現在に至る。						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の概要、定義を学ぶ。 ・理学療法の評価・治療の大まかな流れを学ぶ。 ・インフォームド・コンセント、コミュニケーション法について理解・実施できる。 						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・理学療法の定義を述べられる。 ・理学療法の評価、治療の大まかな意図を理解する。 ・インフォームド・コンセントが実施できる。 						
評価方法と基準	出席:30% レポート提出:70%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/17	講義	標準予防策を実施できる	教科書読み予習及び復習
2	5/17	講義	理学療法の背景(1) 障害の概念・分類、保険制度	教科書読み予習及び復習
3	5/24	講義	理学療法の背景(2) 歴史・法律、職業倫理、日本理学療法士	教科書読み予習及び復習
4	5/24	講義	理学療法の構成	教科書読み予習及び復習
5	6/14	講義	理学療法に必要な知識と実習	教科書読み予習及び復習
6	6/14	講義	理学療法の主対象(1) 運動器系	教科書読み予習及び復習
7	6/21	講義	理学療法の主対象(2) 運動器系	教科書読み予習及び復習
8	6/21	講義	理学療法の主対象(3) 運動器系	教科書読み予習及び復習
9	6/28	講義	理学療法の主対象(1) 中枢神経系	教科書読み予習及び復習
10	6/28	講義	理学療法の主対象(2) 中枢神経系	教科書読み予習及び復習
11	7/5	講義	理学療法の主対象(3) 中枢神経系	教科書読み予習及び復習
12	7/5	講義	理学療法の主対象(1) 内部疾患	教科書読み予習及び復習
13	7/12	講義	理学療法の主対象(2) 内部疾患	教科書読み予習及び復習
14	7/12	講義	病気・職域別の理学療法(1)	教科書読み予習及び復習
15	7/26	講義	病気・職域別の理学療法(2)	教科書読み予習及び復習
準備学習 時間外学習		準備学習は事前にテキストを読む		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
PT・OTビジュアルテキスト 理学療法概論 課題・動画を使ってエッセンスを学びとる 第1版 羊土社 その他備品教材使用				

科目名 (英)	理学療法評価学Ⅰ	必修 選択	必須	年次	1	担当教員	梶原一将
	(Evaluation of PT Ⅰ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	30 (1)	開講区分	前期 金曜日 1・2限
学科・コース	理学療法科Ⅰ部						
教員の略歴	2014年より理学療法士として急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリ勤務を経て、現在に至る。						
授業の学習内容	①理学療法評価とは何かを学ぶ ②バイタルサインとは何か学ぶ ③形態測定を学ぶ ④関節可動域検査を学ぶ						
到達目標	①理学療法評価の統合と解釈ができる ②バイタルサインを理解、実施できる ③形態測定、関節可動域検査が実施できる						
評価方法と基準	①実技試験 90% ②出席点 10%						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	5/21	演習	評価の意義と目的を説明できる	実技の復習
2	5/21	演習	問診や情報収集ができる	実技の復習
3	5/28	演習	理学療法評価における観察・検査・測定のための必要知識を整理し述べる事が	実技の復習
4	5/28	演習	バイタルサインについて理解する	実技の復習
5	6/4	演習	触診ができる	実技の復習
6	6/4	演習	形態測定ができる	実技の復習
7	6/11	演習	関節可動域の定義を述べられる	実技の復習
8	6/11	演習	肩関節の関節可動域を実施できる	実技の復習
9	6/25	演習	肘関節の関節可動域を実施できる	実技の復習
10	6/25	演習	手関節の関節可動域を実施できる	実技の復習
11	7/2	演習	股関節の関節可動域を実施できる	実技の復習
12	7/2	演習	膝関節の関節可動域を実施できる	実技の復習
13	7/9	演習	足関節の関節可動域を実施できる	実技の復習
14	7/9	演習	頸部・体幹の関節可動域を実施できる	実技の復習
15	7/30	演習	関節可動域を測定できる	実技の復習
	7/31	実技試験	実技試験	
準備学習 時間外学習		検査の自主練習を行う		
【使用教科書・教材・参考書】 □				
理学療法評価学 改定第5、6版 金原出版株式会社				

科目名 (英)	理学療法評価学Ⅱ	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	梶原一将
	(Evaluation of PTⅡ)	授業 形態	演習	総時間 (単位)	60 (2単位)	開講区分	後期 金曜 3・4 限
学科・コース	理学療法科 I部						
教員の略歴	2014年より理学療法士として急性期、亜急性期、地域包括ケア病棟、訪問リハビリ勤務を経て、現在に至る。						
授業の学習内容	<ul style="list-style-type: none"> ・講義にて理学療法評価における意義や目的、必要知識を学ぶ。また、配布資料を基に復習する。 ・演習を中心に、問診、検査・測定を練習する。健常者同士で実施する中で注意点や対象者への接し方を学ぶ。 ・医療面接による情報と検査・測定の結果の関連性について、演習の中で説明しながら理解を深める。 						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> (1) 理学療法評価の意義と目的を理解し説明することができる。 (2) 理学療法評価における必要知識を理解し、演習の中で関連付けることができる。 (3) 検査・測定の意義と目的を理解し、健常者同士で実施することができる。 (4) 徒手筋力検査・そのほかの検査における必要知識を暗記することができる。 (5) 臨床を想定し、一連の流れで問診・検査・測定を実施することができる。 						
評価方法と基準	<ol style="list-style-type: none"> 1) 実技試験 80% 2) 出席点 20% 						

授業計画・内容							
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習	時間外学習(学習課題)		
1	9月3日	演習	上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。①	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
2	9月3日	演習	上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。②	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
3	9月10日	演習	上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。③	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
4	9月10日	演習	上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。④	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
5	9月24日	演習	上肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。⑤	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
6	6月24日	演習	下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。①	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
7	10月1日	演習	下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。②	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
8	10月1日	演習	下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。③	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
9	10月8日	演習	下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。④	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
10	10月8日	演習	下肢の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。⑤	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
11	10月15日	演習	頭頸部・体幹の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。①	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
12	10月15日	演習	頭頸部・体幹の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。②	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
13	10月22日	演習	頭頸部・体幹の徒手筋力検査を健常者同士で実施することができる。③	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
14	10月22日	演習	実技試験を想定し、一連の流れで徒手筋力検査を実施することができる。	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
15	10月29日	演習	実技試験を想定し、一連の流れで徒手筋力検査を実施することができる。	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
16	10月29日	演習	徒手筋力検査の臨床的捉え方と、筋力低下のメカニズムについて理解することができる。	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
17	11月5日	演習	徒手筋力検査の臨床的捉え方と、筋力低下のメカニズムについて理解することができる。	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
18	11月5日	演習	徒手筋力検査の定義と目的を説明することができる。測定における筋力の必要知識を述べることができる。	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
19	11月12日	演習	徒手筋力検査の定義と目的を説明することができる。測定における筋力の必要知識を述べることができる。	徒手筋力検査の復習	自主練習 (主動作筋・手技・グレード)		
20	11月12日	演習	痛みの評価について理解し模範・実施することができる。	痛みの評価	自習練習		
21	11月19日	演習	痛みの評価について理解し模範・実施することができる。	痛みの評価	自習練習		
22	11月19日	演習	知覚検査・反射検査について理解し模範・実施することができる。	知覚検査・反射検査	自習練習		
23	11月26日	演習	知覚検査・反射検査について理解し模範・実施することができる。	知覚検査・反射検査	自習練習		
24	11月26日	演習	整形外科疾患検査について理解し模範・実施することができる。	整形外科検査	自習練習		
25	12月3日	演習	整形外科疾患検査について理解し模範・実施することができる。	整形外科検査	自習練習		
26	12月3日	演習	片麻痺機能検査について理解し模範・実施することができる。	片麻痺機能検査	自習練習		
27	12月10日	演習	片麻痺機能検査について理解し模範・実施することができる。	片麻痺機能検査	自習練習		
28	12月10日	演習	日常生活活動の検査について理解し模範・実施することができる。	日常生活活動の検査	自習練習		
29	12月17日	演習	日常生活活動の検査について理解し模範・実施することができる。	日常生活活動の検査	自習練習		
30	12月17日	演習	理学療法評価の臨床応用について学び、「理学療法実習」の関連性を理解することができる。	評価の復習			
	12月18日	実技試験	徒手筋力検査 実技試験				
準備学習		時間外学習		①検査・測定方法の事前学習 ②授業後の健常者同士での自主練習			
【使用教科書・教材・参考書】 □							
①理学療法評価学(改定第6版) : 金原出版株式会社 ②新・徒手筋力検査法(第10版) : 協同医書出版							

科目名 (英)	地域福祉論 (Principles of Community welfare)	必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋末倫
学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	15 1	開講区分 曜日・時限	後期 火曜日 1・2時限
教員の略歴	理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得)						
授業の学習内容	理学療法士は臨床現場で様々な症例と関わるが、その方々は病院を退院した後に様々な社会福祉サービスをうけ地域で生活されているケースが多い。そのため理学療法士は症例のリハビリテーションゴールを考える上で、どのような福祉のサービスを利用することが将来の幸福へとつながるのか、症例本人や関係職種と検討をおこなっていく必要がある。本授業では、福祉とは何か、福祉の考え方の変化、どのような福祉に関する法律が存在するのか、その法律は症例にどのように関係するのか、どのようなサービスを利用することができるのか、などを学び、身体的な治療のみならず多面的に症例をとらえる視点を持つことを目指し実施する。						
到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉、社会福祉、地域福祉とは何かを日本を福祉の歴史を通して、その意味と考え方を理解する。 ・福祉に関する法律や福祉サービスを学び、どのような方が福祉の対象者となるのかを理解できる。 ・福祉対象者の抱えるニーズおよび専門職者としての具体的な支援方法について理解し、適切に説明できるようになる。 ・日本以外の国における福祉の考え方も学び、それぞれの長所・短所等を理解する。 						
評価方法と基準	筆記試験(本試験80%、課題レポート20%)						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	1月11日	講義	福祉とはなにか?なぜ理学療法士が福祉を学ぶ必要があるのかを理解する	配布資料の復読、課題作成
2	1月11日	講義	日本における福祉の考え方の変化を理解する	配布資料の復読、課題作成
3	1月18日	講義	社会福祉の基本となる3つの理念を理解する	配布資料の復読、課題作成
4	1月18日	講義	自立支援に必要な考え方を理解する	配布資料の復読、課題作成
5	1月25日	講義	社会福祉八法について理解する①	配布資料の復読、課題作成
6	1月25日	講義	社会福祉八法について理解する②	配布資料の復読、課題作成
7	2月1日	講義	社会福祉八法について理解する③	配布資料の復読、課題作成
8	2月1日	講義	生活保護法について理解する	配布資料の復読、課題作成
9	2月8日	講義	介護保険について理解する	配布資料の復読、課題作成
10	2月8日	講義	介護保険にて利用できるサービスを理解する	配布資料の復読、課題作成
11	2月15日	講義	世界の医療・福祉について理解する①	配布資料の復読、課題作成
12	2月15日	講義	世界の医療・福祉について理解する②	配布資料の復読、課題作成
13	2月22日	講義	世界の医療・福祉について理解する③	配布資料の復読、課題作成
14	2月22日	講義	日本の福祉における今後の課題を考える	配布資料の復読、課題作成
15	3月1日	テスト	定期試験	
16	3月1日	講義	試験解説	
準備学習 時間外学習			配布資料の復読、課題作成	
【使用教科書・教材・参考書】 □ 特になし				

科目名 (英)	国家試験演習 I (The prac of Qualifying Exam I)		必修 選択	必修	年次	1	担当教員	高橋末倫
	学科・コース	理学療法科 I 部	授業 形態	講義	総時間 (単位)	30 (1単位)	開講区分	前期 火・水 1・3限
教員の略歴	理学療法士として8年間の実務経験。修士(理学), Golf physio trainer(2017取得)							
授業の学習内容	理学療法士国家試験合格に向けて、基礎となる解剖学・生理学・運動学の専門基礎分野を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントの把握に加え、専門基礎分野の理解を深める。							
到達目標	①専門基礎分野の基礎学力を向上できる ②学習方法を確立できる ③学習習慣を確立できる							
評価方法と基準	1)筆記試験 (100%)							

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月7日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
2	4月8日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
3	4月15日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
4	4月22日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
5	5月6日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(解剖学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
6	5月13日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
7	5月18日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
8	5月25日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
9	6月1日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
10	6月8日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(生理学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
11	6月15日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
12	6月22日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
13	6月29日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
14	7月6日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
15	7月13日	講義	国家試験合格に向けて、専門基礎分野(運動学)を過去問を中心に反復学習を実施し学習習慣・出題傾向及び国家試験の出題ポイントを把握し、理解を深めることができる。	国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。
準備学習 時間外学習			国家試験出題基準に即した国家試験対策ノートを作成する。	

【使用教科書・教材・参考書】 □

国試の達人 PT・OTシリーズ2020 運動解剖生理学編 アイベック